

## 第24回マネジメントセミナー

### 「新しい車社会を目指して」～ 日産の環境への取組みとEV戦略 ～

11月13日に、日産自動車(株)の技術開発本部・先行開発を担当しておられる篠原稔常務執行役員をお招きし、日産の電気自動車(EV)を含めた低炭素社会への戦略をお話いただいた。

日産では、安全を含め、環境を改善するために2015年までの具体的目標を立てて、車の改善のみならず、運転方法の改善による燃費向上(人)や、渋滞の少ない交通環境づくり・社会の変革の3分野について、トリプル・レイヤー・アプローチと名づけて総合的に取り組んでおり、それぞれについて分かりやすく解説戴いた。

車の改善のひとつとして電気自動車を2010年に市場へ投入する。電気自動車の商品化が可能になった背景には電池の高性能化があり、薄型の電池(約200リットル、携帯電話の電池約1万個分)を床下に配置することで5人が乗れる空間を確保し、一回の充電で160km走行できるようになった。電気自動車の特性として、エンジン付の車に比較して機敏な動きができることがあり、研究を発展させると、ぶつかりにくい車の開発につながる可能性がある。また、車に搭載された無線からの信号で渋滞状況などがより正確に把握できる、車の電池や、廃車した車の電池を利用した余剰電気の蓄電施設ができるなど、社会を大きく変え、新しい社会の実現が可能であるなどを詳しくお話いただいた。



講演する篠原常務



日産の電気自動車「リーフ」

聴講者からは、「電気自動車がこれほど社会を変えとは思わなかった」「夢のある将来への戦略を聞いていて大変感動した」など大変高い評価を戴いた。  
(文責事務局)